

平成28年度組織目標(組織名: 畜産課)

目標

番号	目標項目	目標設定の理由	目標値等(目標の内容) ※原則として定量的かつより成果を重視したものを設定	目標達成に向けての手段等	基本構想に係る 実施計画の 関連施策	総合戦略に係る 関連プロジェクト
1	近江牛の生産基盤強化	ブランド牛の産地間競争が激化する中、肉用子牛や飼料価格の高騰、さらにTPP合意など、畜産経営に及ぼす影響が懸念されることから、近江牛の安定供給のための持続可能な生産基盤強化が必要です。	○近江牛の飼養頭数 12,800頭 (H27 12,165頭)  ○和牛子牛の出生頭数 1,150頭 (H27 975頭)  ○稲わら自給率 75% (H27 70%)	○畜産を中心として地域ぐるみで収益性をあげる畜産クラスター事業の取組の推進や、肥育牛の増頭支援を行います。  ○繁殖雌牛の増頭を支援するとともに、畜産技術振興センターに子牛の哺育・育成施設(キャトル・ステーション)を整備します。  ○耕種農家と連携した稲わら等の県産飼料の生産・利用を拡大し、地域と結びついた生産を積極的に推進するとともに、地理的表示保護制度への登録に向けた検討を行います。	5-1 滋賀の強みを活かした農林水産業振興と魅力ある農山漁村づくり	「山～里～湖」農漁村つながりプロジェクト
2	県外へ向けた県産食材の魅力発信	県外での県産食材の認知度向上、販路拡大につなげるためには、実需者であるレストランでの取扱いを増やしていくことが重要です。	○東京において開催する近江牛フェアへの参加店舗数 10店舗  ○近江牛を核としたインバウンド観光ツアー数 10ツアー	○全国の情報発信拠点である東京において近江牛取扱店でのフェア開催や著名雑誌への掲載を通じて、近江牛の魅力発信を推進します。  ○近江牛を核としたインバウンド観光を推進することにより、近江牛の消費を喚起します。	5-2 滋賀のブランド力向上と地産地消の推進	滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト
3	耕畜連携による県産飼料の利用推進	本県畜産業の持続的な発展を図るためには、県産飼料を活用したしがの畜産物づくりが必要です。	○粗飼料自給率 46% (H27 43%)	○飼料自給率向上戦略会議を通じて情報共有を図りながら推進します。  ○畜産クラスター事業等を活用した機械、施設の整備を推進します。  ○水田を活用した県産飼料の生産利用拡大を推進します。	5-1 滋賀の強みを活かした農林水産業振興と魅力ある農山漁村づくり	「山～里～湖」農漁村つながりプロジェクト

4	酪農生産基盤の強化	酪農家の高齢化や生産費の増加による収益性の低下等により、乳用牛飼養戸数・飼養頭数が年々減少しており、安定した生乳生産を確保するためには酪農生産基盤の強化が重要です。	○乳用牛の飼養頭数 H37 6,150頭 (H27 3,350頭)	○乳用牛ベストパフォーマンス実現支援事業や牛群検定を活用することにより、乳用牛の生産性を高め、収益性の向上を図ります。  ○畜産クラスターの仕組み等を活用した施設整備等による既存農家の規模拡大や新規参入を支援します。  ○酪農ヘルパーや預託牧場等の外部組織を活用した分業化や飼養管理機器の導入による省略化を推進します。	5-1 滋賀の強みを活かした農林水産業振興と魅力ある農山漁村づくり	「山～里～湖」農漁村つながりプロジェクト
5	家畜伝染病の発生防止	安全・安心な畜産物を安定的に生産・供給するためには、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の地域経済への影響が極めて大きな悪性家畜伝染病の発生を防止し、まん延させないことが重要です。	家畜伝染病の発生防止と家畜防疫に係る危機管理体制の強化	○家畜伝染病の発生予防 ・定期的な農家巡回の実施による飼養衛生管理水準の向上  ○家畜防疫に係る危機管理体制の強化 ・防疫演習、担当者会議等の開催および参加による県内関係機関および団体等との情報の共有化 ・農政局および近隣府県との情報交換による広域連携体制の充実強化	5-1 滋賀の強みを活かした農林水産業振興と魅力ある農山漁村づくり	「山～里～湖」農漁村つながりプロジェクト
6	滋賀食肉センターの経営健全化	滋賀食肉センターが本県畜産業の拠点として持続的に運営できるよう、センターを構成する（公財）滋賀食肉公社、（株）滋賀食肉市場の安定的な経営基盤を確立することが必要です。	平成28年度単年度黒字の継続 （公財）滋賀食肉公社 当期収支の黒字化  （株）滋賀食肉市場 単年度経常損益の黒字継続	○滋賀食肉センター経営研究会での経営改善策の検討  ○両法人のガバナンスの強化、自主的な経営改善の取組への支援	5-1 滋賀の強みを活かした農林水産業振興と魅力ある農山漁村づくり	「山～里～湖」農漁村つながりプロジェクト